

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第29期 第3四半期 連結累計期間	第30期 第3四半期 連結累計期間	第29期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
営業収益 (百万円)	2,710,577	3,179,899	3,662,288
経常利益 (百万円)	393,955	538,591	514,421
四半期(当期)純利益 (百万円)	180,247	268,653	241,469
四半期包括利益又は包 括利益 (百万円)	183,570	317,881	263,579
純資産額 (百万円)	2,245,258	2,865,940	2,323,363
総資産額 (百万円)	4,018,616	4,843,082	4,084,999
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	235.81	336.28	315.90
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	215.94	-	289.26
自己資本比率 (%)	54.1	54.8	55.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	291,345	579,102	523,908
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△335,159	△347,157	△472,992
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△36,960	△114,722	△140,249
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	93,719	207,616	87,288

回次	第29期 第3四半期 連結会計期間	第30期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	131.47	126.84

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は平成24年10月1日付で、普通株式1株を100株に分割するとともに、1単元の株式の数を100株とする単元株式制度を採用いたしました。また、平成25年4月1日付で、普通株式1株を2株に分割いたしました。このため、当該株式分割が、前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

4. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

「パーソナル」及び「バリュー」セグメント

当社は、第1四半期連結会計期間において、株式会社ジュピターテレコム株式を公開買付けにより追加取得し、実質支配力基準により、株式会社ジュピターテレコム及び同社の子会社19社を連結子会社といたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

① 業績等の概要

■業界動向

日本の情報通信市場においては、従来型の携帯端末からスマートフォンやタブレット端末といった「スマートデバイス」へのシフトが急速に進んでおります。さらに通信ネットワークはLTE (Long Term Evolution) による高速化が進み、インターネットやデジタルコンテンツが様々な端末や場所で、快適にご利用いただける環境が整いつつあります。

スマートデバイスへのシフトは、通信料収入の増収やサービス・コンテンツによる通信料以外の収入機会を生み出す反面、モバイルデータトラフィックの増大を招いており、トラフィックの効率的な収容が事業者共通の課題となっております。また、事業者間での端末の同質化が進む中、移動通信分野における競争軸はLTEによる高速ネットワークや料金・サービス面にシフトしてきております。一方、固定通信分野ではADSLからFTTHへのシフトが進み、CATVのインターネットも含めた固定ブロードバンド市場が拡大しております。

■当社の状況

・当社は、モバイルと固定の両方のネットワークを併せ持つ強みを生かした「3M戦略（マルチネットワーク、マルチデバイス、マルチユース）」を事業戦略の中核に据え、その本格展開に取り組み、お客様満足度の向上と収益の最大化を図っております。当連結会計年度は、本格的な成長に向けた新たなステージの初年度として、「3M戦略の推進および深化」と「グローバル戦略の推進」に取り組んでおります。

・3M戦略として、スマートフォンと固定通信のセット割引である「auスマートバリュー」による顧客基盤の拡大、強化を図るとともに、定額でアプリが使い放題となる「auスマートパス」による付加価値ARPUの向上を目指してまいりました。

また、昨年5月以降、スマートフォンのユーザー層拡大に繋がる「auスマートサポート」や「auスマートパス」の拡充等により、お客様満足度の向上を図り、更なる顧客基盤の拡大とARPUの向上を目指しております。